

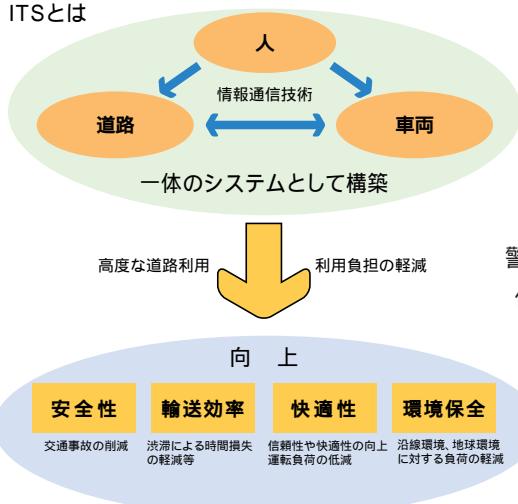
いすゞは、自動車の使用に伴う環境負荷を低減するために、自動車単体の改善にとどまらず、自動車を取り巻く交通・物流の輸送効率向上による環境負荷低減を視野に入れた幅広い取り組みを進めています。

目標	施策
新交通システムの開発	ITSプロジェクトの推進
物流支援システムの開発	いすゞ運行管理システムの開発
自社製品・部品物流の合理化	海上輸送拡大、梱包・包装資材低減、共同輸送拡大

## 実績

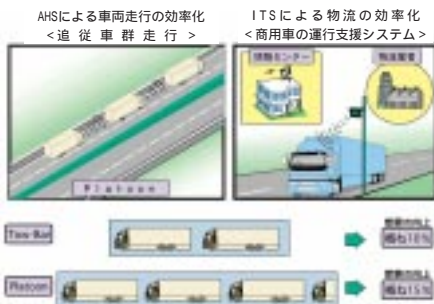
### 新交通システムの開発

ITSとは



出典：政府広報資料(高度道路交通システム(ITS)推進に関する全体構想1996)

### ITSの可能性/環境対策



大気汚染や地球温暖化、交通渋滞といった自動車交通が抱える問題を解決する切り札として、通信技術によって道路・人・車両を一体のシステムとして構築するITS(高度道路交通システム)構想が提案されています。この構想のもとに、ナビゲーションシステムの高度化、有料道路の自動料金収受システム、安全運転支援システム、交通管理の最適化、道路管理の効率化などの具体的なテーマが、産学官協力のもと、その実現に向けて強力に推進されています。これらが実現すると、交通事故の大幅な低減だけでなく、道路利用効率の向上や渋滞の軽減により、燃費の向上およびNOxやCO<sub>2</sub>の排出量の低減が期待されます。

いすゞにおいても従来から輸送効率・安全性向上と環境負荷低減をめざし、車間距離警報・車線逸脱警報システムや運行管理システムを開発してきましたが、ITS構想が本格化する中1997年に専門部署を設置し、いすゞ独自の技術と経験を生かした開発を促進してきました。

### 商業車の高知能化

高級乗用車では、エンジンのみならず、トランスミッションやサスペンションのコンピューター制御が日常化していますが、トラックやバスなどの商業車にもその影響は及びつつあります。

次世代の物流システムの開発をめざすいすゞは、安全かつ効率的で環境にも配慮した高知能型商業車をはじめ、高度なトラック物流システム・人員輸送システムの実現に向け、総力を結集して技術開発に努めています。その1つとして、道路インフラとの協調により安全性・交通効率の向上、そして最終的には自動運転をめざすAHS(走行支援道路システム)技術の実現に向け、1996年の発足以来AHS研究組合に唯一の商業車メーカーとして参画し、活動を推進しています。

また、道路インフラに頼らない、どこでも走れる自律型の自動運転技術開発についても、独自の立場から積極的に取り組んでいます。